

【補助事業概要の広報資料】

補助事業番号 24-4-005

補助事業名 平成24年度 (復興支援) 被災地域の記録、調査活動 補助事業

補助事業者名 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

東日本大震災は地域社会の文化財にも大きな被害をもたらした。有形の文化財ばかりでなく、住民の被災と避難により祭りや民俗芸能・年中行事などの無形の文化財の存続も危ぶまれている。これから地域社会が再生するにあたって住民の記憶やアイデンティティの核となるはずの文化財は消失の危機にある。

最終的に目指すのは、大学や博物館などの研究機関と行政、そして住民の連携により今回の震災のような大規模災害時にも地域社会の歴史と文化を知る資料となる有形・無形の文化財を保全していくことができる柔軟なシステムを構築することである。

災害に際しての短期的な対応としては通信・交通網が寸断された状況の中で文化財を救出して必要な地域・団体に人材・情報・物資を供給するネットワークを形成できるようにし、中長期的な対応としては被災した文化財の保存と活用のあり方についてのシステムを共有できるようにすることである。

(2) 実施内容

- ・有形の文化財の修復・洗浄・整理を行い、目録を作成した。また、所有者などにインタビューして文化財の来歴を明らかにし、かつての生活の復元を行った。無形の文化財についても、復活の過程についてインタビューを実施し、写真や映像によって記録した。



- ・文化庁レスキュー事業における国—県—市町村のタテ構造の組織が果たした成果とともに、研究者同士の相互扶助的なヨコ構造のネットワークが自然発生的に形成された過程とその役割についても検討し、両者の適切な関係について提起を行った。



岩手県の文化財レスキュー調査風景



宮城県の文化財レスキュー調査風景



福島県の文化財レスキュー調査風景

- ・平成25年3月公開の常設展示および特集展示において、研究者、被災地の住民、一般の市民の間で相互的なコミュニケーションが形成される展示空間を設計し、パンフレットを発行した。



特集展示風景

- ・これらの成果を報告書にまとめて刊行して調査・研究の成果を発信した。

2 予想される事業実施効果

- ・本事業で救出された生活用具、民具、文書などは、今後の被災地における歴史・文化研究における基礎的資料となっていくものである。
- ・本事業で救出された資料の活用という点について、本館で現在開催中の特集展示「東日本大震災と気仙沼の生活文化」と報告書刊行によって、大きく進展したが、今後もこうした情報発信を継続することにより、文化財レスキュー活動の社会的

認知が進むことが期待される。

- ・本事業で深化した文化財保全全般に関する方法論的、組織論的なシステムの構築は、今後、発生が予測される大規模災害への対応に関して資するところがあるだろう。

3 本事業により作成した印刷物等

- ・『東日本大震災と気仙沼の生活文化 図録と活動報告』
- ・『東日本大震災と気仙沼の生活文化 特集展示解説シート』



4 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 国立歴史民俗博物館

住所： 〒285-8502

千葉県佐倉市城内町117番地

代表者： 館長 平川 南（ヒラカワ ミナミ）

担当部署： 管理部博物館事業課展示係

（カンリブハクブツカンジギョウカテンジカカリ）

電話番号： 043-486-4912

F A X： 043-486-4211

E-mail： tenji@ml.rekihaku.ac.jp

U R L： <http://www.rekihaku.ac.jp>